

式年遷宮で建て替えられた伊勢神宮内宮の新社殿（下）と現社殿 25日午前、三重県伊勢市でへりから（代表撮影）



20年ごとに社殿を建て替える式年遷宮が行われている伊勢神宮（三重県伊勢市）を25日、上空から撮影した。内宮、外宮とも、かやぶきの屋根や、ヒノキの柱がこげ茶色になった現社殿と対照的に、新社殿は真新しいヒノキの明るい色や、装飾材が輝いていた。神宮の事務を扱う神

伊勢神宮 内宮で心御柱奉建

宮司庁が同日、撮影を許可した。

神宮司庁によると、内宮には皇室の祖神とされる天照大神が、外宮には衣食住や産業の神とされる豊受大神がまつられている。両宮とも同じ大きさの敷地が東西に並び、遷宮のたびに、高床式倉庫から発展した「唯一神明造」という工法で新

しい社殿が造られ、古い方は解体される。

内宮では同日、式年遷宮の儀式の一つで、完成した新しい正殿の床下に、鷹司尚武大宮司ら神職がヒノキの柱を建てる心御柱奉建が行われた。儀式は、闇の中、人目につかないよう行われる秘祭で非公開。遷宮の諸行事、祭事の中でもひとときわ重んじられている。

心御柱は、新正殿の中心となる重要な柱とされる。2005年5月に行われた木本祭で用材が伐採され、内宮の心御柱は神田で収穫したコメを保管する御稲御倉に安置されていた。心御柱が建てられる位置には、新正殿着工に先立って小さな覆屋が建てられ、柱が納まる場所を守り続けてきた。27日夜には、外宮でも心御柱奉建が行われる。

新社殿輝く

新社殿色鮮やか 伊勢神宮

20年ごとに社殿を建て替える式年遷宮が行われている伊勢神宮（三重県伊勢市）を25日、上空から撮影した。内宮、外宮とも、かやぶきの屋根や、ヒノキの柱がこげ茶色になった現社殿と対照的に、新社殿は真新しいヒノキの明るい色や、装飾材が輝いていた。神宮の事務を扱う神宮司庁が同日、撮影を許可した。

内宮では同日、式年遷宮の儀式の一つで、完成した新しい正殿

は、闇の中、人目につかないよう行われる秘祭で非公開。遷宮の諸行事、祭事の中でもひとときわ重んじられている。



式年遷宮で建て替えられた伊勢神宮外宮の新社殿（左）と現社殿 25日午前、三重県伊勢市でへりから（代表撮影）